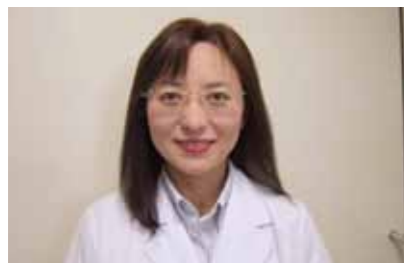


連携医院のご紹介

今回は「まず、最初に何でも相談していただけるクリニック」を心がけておりますサザンクリニック整形外科・内科、副院長の山本尚子先生です。



山本尚子副院長

サザンクリニック整形外科・内科

〒730-0833
広島市中区江波本町5-28
電話/082-234-5557
FAX/082-234-5558
院長/山本 竜
副院長/山本尚子
診療科/整形外科・内科・
リハビリテーション



○いつ頃開業されましたか。

平成13年10月に開業しました。私は、自治医科大学を卒業し、広島県の人事9年のうち、県病院では初期研修・消化器内科・総合診療科で勤務させていただきました。

○山本先生が毎日の診療で大切にされていることは何ですか。

患者様の訴えをしっかりと伺い、ご期待に沿えるような治療をすることを大切にしております。そして、患者様の生活環境、ご家族の状況などを踏まえ、地域に根ざした医療を心がけております。特に、往診を通じ、動けない方への治療もしっかりと取り組んでいきたいと思っております。また、地域の方が気軽に相談に来られるよう、朝は少し早くから、昼は休憩時間のあいだ院内を開放し、「相談しやすい」「居心地の良い」環境作りも心がけております。

○開業医としてやりがいを感じるところはどこなところですか。

整形外科と内科両方で診させていただいていることで、患者様の様々な相談に耳を傾けられるところです。また、時間に融通がつくことで、予約をしていただ

ければ時間外にも診させていただくことができ、大変やりがいを感じております。

○県病院についてひとことお願いします。

とても頼りにさせていただいております。特に、検査・治療・救急でお世話になっております。



サザンクリニック外観

【取材後記】

お昼の休憩時間に取材をさせていただきましたが、2階のロビーでは何人かの患者様が談笑されていました。取材もとても優しく、そして丁寧に応じてくださり、相談しやすく、また居心地の良い環境であることを実感しました。

もみじ

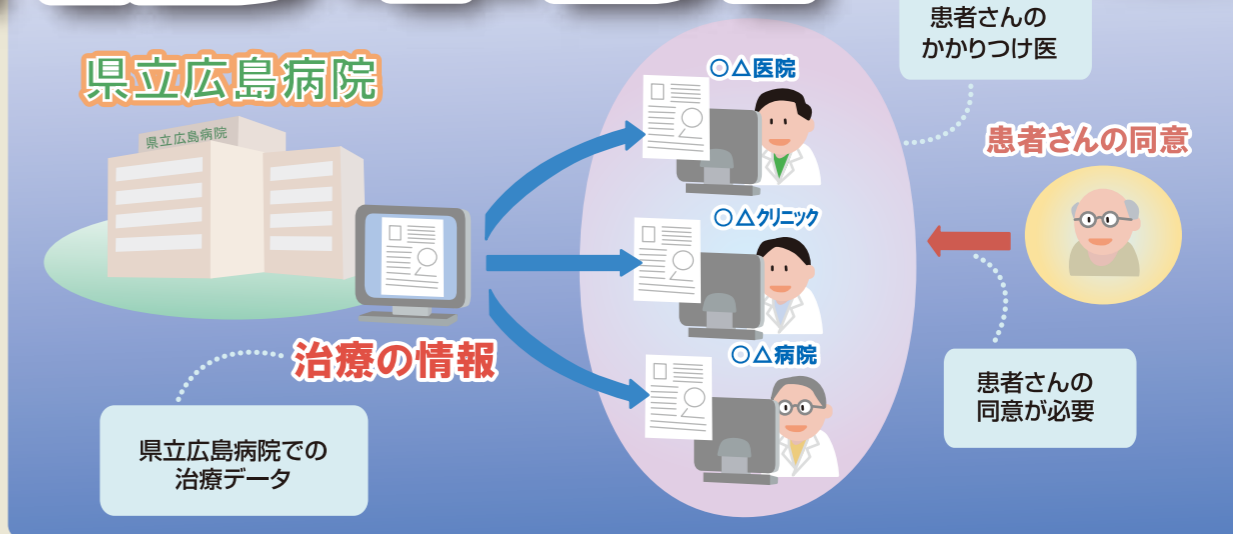


県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

KBネット 始めました!



県立広島病院からのお知らせ

ぴあチアーズ交流会 (脳卒中広島友の会)

とき 平成24年 **11月10日** (土)
13:00~15:00 (予定)

ところ 中央棟2階 講堂

対象 脳卒中の患者さん及び、そのご家族

問合せ先 看護部 (担当:大野)

TEL:082-254-1818 内線 (4266)

FAX:082-253-8274

がん医療従事者研修会

とき 平成24年 **11月22日** (木)
19:00~

ところ 中央棟2階 講堂

テーマ がん診療における口腔管理について (仮)

講師 歯科・口腔外科部長 延原浩 ほか

問合せ先 総務課管理係 (担当:藤原)

TEL:082-254-1818

内線 (4273)

御礼

平成24年10月13日(土)に広島市南区医師会、広島市南区地域保健対策協議会及び県立広島病院共催で「第7回地域健康フォーラム」を開催しました。当日は、200名を超える地域の方々の御参加をいただきました。誠にありがとうございました。(広島市南区医師会長 牛尾内科医院 牛尾 剛士)



外来診療のご案内

診療受付時間

午前8時30分~午前11時00分
※午後の診療は科によって異なります。

休診日

土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始(12月29日~1月3日)

紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費のほか2,620円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ちください。

※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されるご待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承ください。

KBネットとは

県立広島病院地域医療連携ネットワーク(KBネット)とは、県立広島病院とかかりつけの医療機関を結び、同意を得られた患者さんの治療の情報をオンラインで共有し、患者さんにより良い医療を提供するシステムです。



セキュリティについて

診療所と県立広島病院は、KBネットを利用して、診療情報を共有しますが、情報は暗号化されており、患者さんの治療の情報は第三者から保護されています。また、診療所においても、許可された端末以外ではこのシステムを利用できない仕組みになっています。

メリット

患者さんの同意に基づき、地域のかかりつけ医の先生方に、県立広島病院での診療状況を見ていただけます。患者さんは、2人の主治医(県立広島病院+かかりつけ医)をお持ちになり、普段の診療は、連携しているかかりつけの診療所で受け、高度な検査、治療、入院が必要になった場合は、県立広島病院がその役割を担うこととなります。

今後は

周辺の医療機関の皆様がKBネットへの参加は、徐々に進んでいます。KBネットの利用により、患者さんに安全な医療を提供できるよう取り組んでいくとともに、より広域の医療機関の間で情報共有ができることを目指しています。

お問合せ先 県立広島病院 地域連携科
電話(082)252-6228(直通)

手術や
抗がん剤治療
の前には

歯科でお口のクリーニングを!!



歯科・口腔外科部長
延原 浩

■口の中の細菌が全身に影響

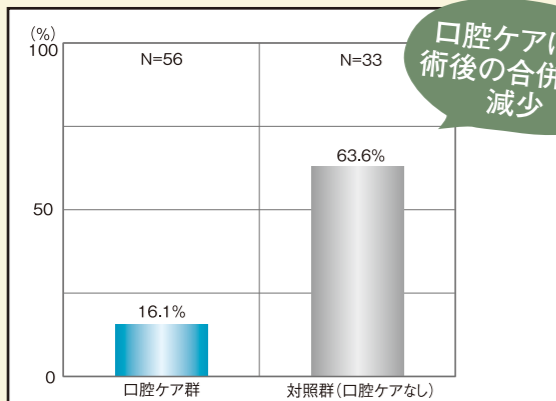
口の中には非常にたくさんの細菌が生息しています。特に、歯の表面に付着している歯垢（デンタルプラーク）は細菌の塊であり、1グラム中に数千億個～数兆個の細菌（なんと糞便の約10倍）がいると言われていています。最近の研究で、それらの細菌が虫歯や歯周病を起こすだけでなく、全身に悪影響を及ぼすことがわかってきました。例えば、血液中に入り込んで動脈硬化を起こし、脳梗塞や心筋梗塞のリスクを高めたり、糖尿病を悪化させたり、肺炎を起こしたり、あるいは、発がんとの関連を指摘する研究もあります。したがって、口の中を常に清潔に保つことは全身の健康にとって非常に大切です。特に、手術をしたり、抗がん剤や放射線治療を行ったりした時には、体の抵抗力が弱りますので、自分で丁寧に歯磨きをするだけでなく、歯科で専門的な口腔ケア（口腔内クリーニング、ブラッシング指導、虫歯や歯周炎の応急処置）を受けることが大切です。



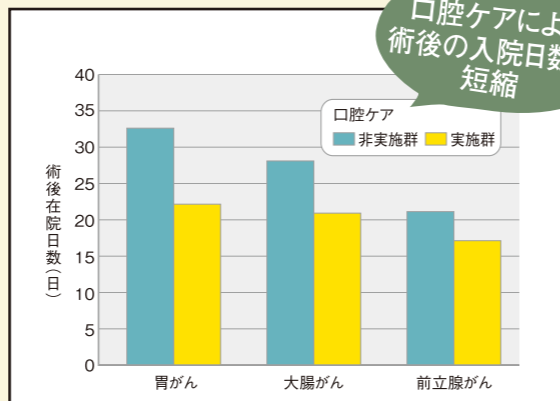
歯科でお口の中を徹底的にクリーニングしてもらいましょう

■手術(全身麻酔)の場合

手術の前に歯科で専門的な口腔ケアを受けた人は、手術後の合併症(肺炎など)が少なく、結果的に入院日数が少なかったという報告があります。



静岡がんセンター 歯科口腔外科部長 大田洋二先生提供資料。厚生労働省がん研究助成金報告書(2003)



市立池田病院 歯科・口腔外科主任部長 大西徹郎先生提供資料。看護技術 54(2005)

■抗がん剤治療の場合

抗がん剤の副作用によって、口の中の感染症(重症の口内炎、カンジダ症)や、歯肉出血、虫歯や歯周病の悪化、併用薬剤による顎骨の壊死などが起こり易くなります。抗がん剤治療を受ける前から、専門的な口腔ケアを開始して継続すれば、口の中に起こるこれらの合併症が重症化するのを予防することができます。

■放射線治療の場合

特に頭頸部の放射線治療を受けると、口の粘膜や唾液腺、さらに顎骨が障害を受けて、口内炎、口腔乾燥、虫歯の多発、顎骨の骨髄炎などが起こり易くなります。一度ダメージを受けた顎骨は回復が難しく、抜歯の後で骨髄炎を発症するリスクがいつまでも続きますので、状態の悪い歯は、できるだけ放射線治療の前に処置しておくのが安全です。

■かかりつけ歯科との連携

県立広島病院は、全国に先駆けて、地元歯科医師会と協同して口腔ケアの連携システムを構築してきました。外来通院中のかかりつけ歯科(認定協力歯科)で専門的な口腔ケアを受け、入院中は院内の歯科で受けることも可能です。

外科医の独り言...no.14

— 多数決 —

我が家には3匹のペットがいます。まずは7歳の犬(シーズー)“マル”、一応血統書付です。ついで推定年齢8歳真っ白な猫“ねこちゃん”。最後に3歳、白と黒の猫“ちび”です。シーズーの“マル”はペットショップで買い求めましたが、猫2匹は捨て猫、野良猫でその生い立ちも不明であり、そういう訳ではありませんが名前の付け方もいい加減です。まず白猫の“ねこちゃん”は、近所では有名な野良猫で鳴らしていましたが、あまりにも痩せているのを見かねた妻が餌で手慣づけて、飼い猫になってしまいました。野良歴が長かったせいか今でもたまに狂暴化しますが、かつての面影は消えてマルマルと太りメタボと化しています。白黒の“ちび”は推定生まれて1か月以内に近所のコンビニに捨てられて？車に引かれそうになったのを娘が連れて帰り、飼い猫になってしまいました。しかし、今では捨て猫とは思えないほど毛艶が良く、実は高級な猫ではないかと思えるほどです。実際、妻がペットショップで“ちび”と全く同じ猫が10万円以上だったと言っていました。まあ、これは飼い主のひいき目と思われても仕方ありません。

ある暑い休日、妻は外出しており昼間からビールを飲もうと思いつき、つまみを探していたところキッチンにパックに入った鰹のたたきを発見、これはいいものを見つけたと思いつとその表示を見ると賞味期限を2日過ぎていました。あとで妻に聞いたら賞味期限切れなので犬猫に与えるつもりで冷蔵庫から出していたようです。この暑い日になぜ冷蔵庫から出していたかということに疑問を抱かなかったことが間違いの始まりでした。期限切れということに少しは不安を感じながらも、パックを開けて嗅いでみようかと判断しました。し

かし待てよ、ここは食べられるかどうかは人間の嗅覚よりはるか優れている犬猫に判断をゆだねようと考えたのが第2の誤りでした。まずは、野良歴の長い“ねこちゃん”、何の躊躇もなくぺろりと平らげ、まだくれと催促しました。「ほー大丈夫なのかな？」ついでニセ高貴な猫“ちび”、鼻を近づけて嗅いだ後いらぬポーズ。「あれ？お腹空いていないのかな？」最後に一応血統書付の“マル”。嗅いだ後にぱくりとくわえて一気に飲み込みました。「鰹のたたきだからちゃんと味わって食えよ」と言いながら、まあここは多数決で『腐っていない、大丈夫』と判断したのが第3の誤りでした。もちろんこの期限切れの鰹のたたきにおいしさを求めていなかった私ですが、ビールを飲みながら残りの鰹のたたきを食べ終わった後、ふと横を見るとなんと“マル”が折角食べた鰹を吐いていました。「なんだよ今更、吐くんなら食べるなよ、お前が食べなかったら多数決で俺も食べなかったのに！」と大人げなく“マル”を叱る自分に情けない思いをしました。「俺は犬猫以下か？じゃあせめて下痢くらいしてくれよ」との期待に反して、翌朝立派な快便に落胆する自分はやっぱり犬猫以下、いや少なくとも同じ快便だった“ねこちゃん”と同等でした。



副院長(消化器・乳腺・移植外科主任部長)
板本敏行(いたもと としゆき)

看護部だより

放射線科

安心して検査・治療が受けられるよう
頑張っています。

当院の放射線科は単純レントゲン検査、CT、MRI検査、血管撮影装置などを使用しているがんや血管病変を治療する放射線診断科と放射線を使ったがん治療を行う放射線治療科があります。私たちは医師と放射線技師で協力し患者さんが安心して検査・治療が受けられるよう頑張っています。



放射線科の皆さんです

CT・MRIなど放射線に関する技術の進歩が著しい現在です。放射線科看護師としても専門的な知識や新しい技術の習得をしていくよう日々努力をし、検査や放射線治療を受ける患者さんの身体的・精神的負担が少しでも軽減できるよう努めています。